

人口減少に打ち勝ち、笑顔で暮らせる島根をつくる



# 島根県における 歯科医療提供体制の現状

2025年9月30日（火）

島根県健康福祉部



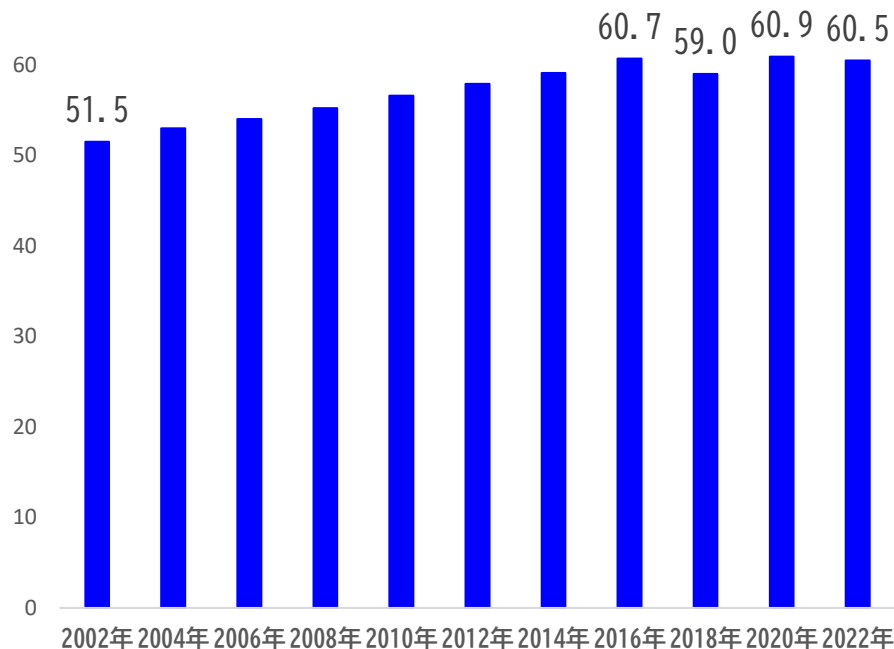
# 島根県の歯科医師数の現状

- 島根県は、県内に歯学部がないこともあり、都道府県別人口10万対歯科医師数は、60.5人と少ない状況にある。
- このような状況の中、これまでの歯科医師数の推移をみると、平成28年（2016年）までは増加していたが、これ以降の約10年は横ばいで推移している。

## 都道府県別 人口10万対歯科医師数 (令和4年度末)

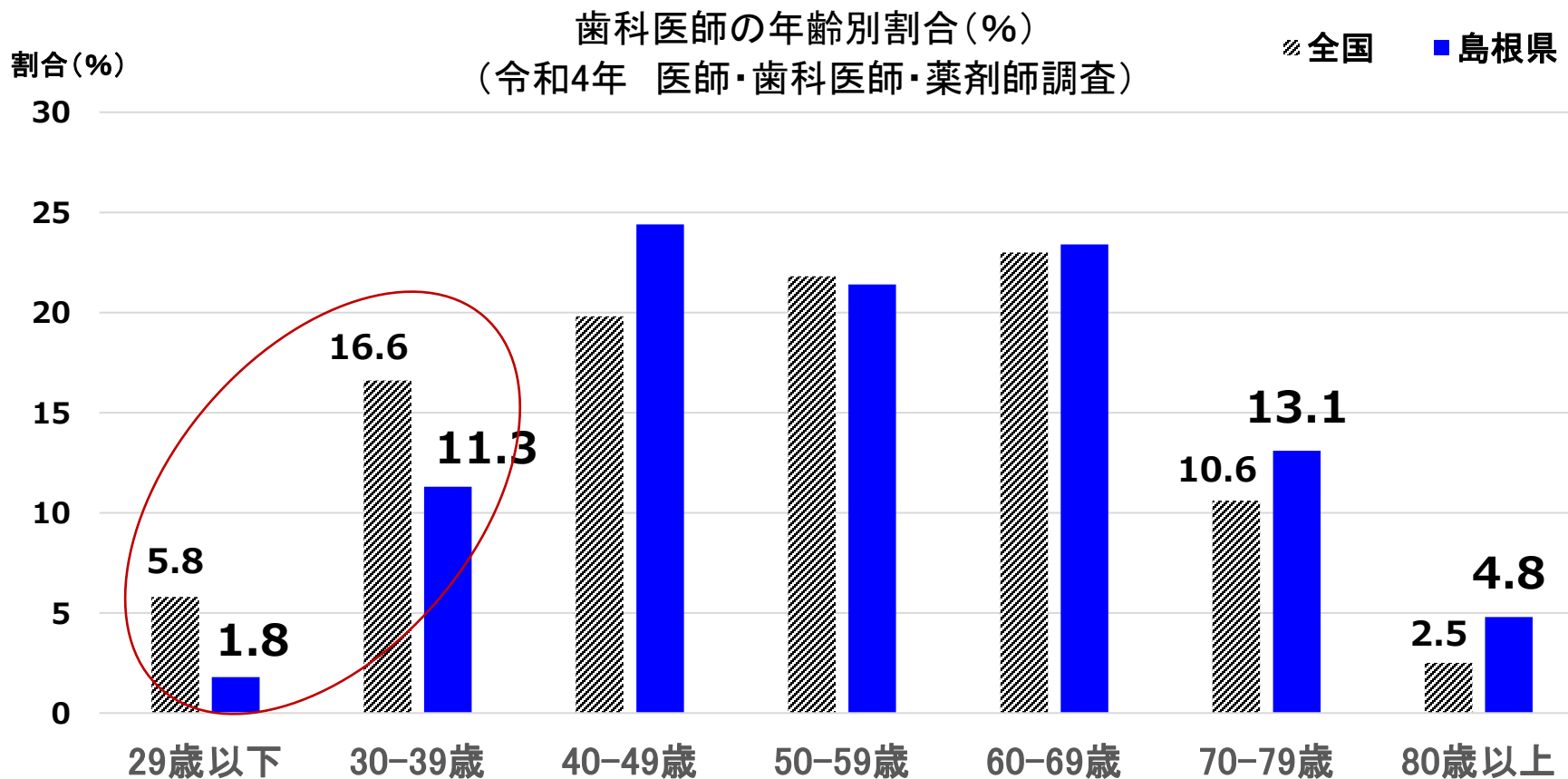
|      |      |        |
|------|------|--------|
| 第1位  | 東京都  | 120.3人 |
| 第2位  | 徳島県  | 118.3人 |
| 第3位  | 福岡県  | 111.5人 |
| ：    |      |        |
|      | 全国平均 | 84.2人  |
| ：    |      |        |
| 第45位 | 島根県  | 60.5人  |

島根県 人口10万対歯科医師数の推移  
(医師・歯科医師・薬剤師調査による)



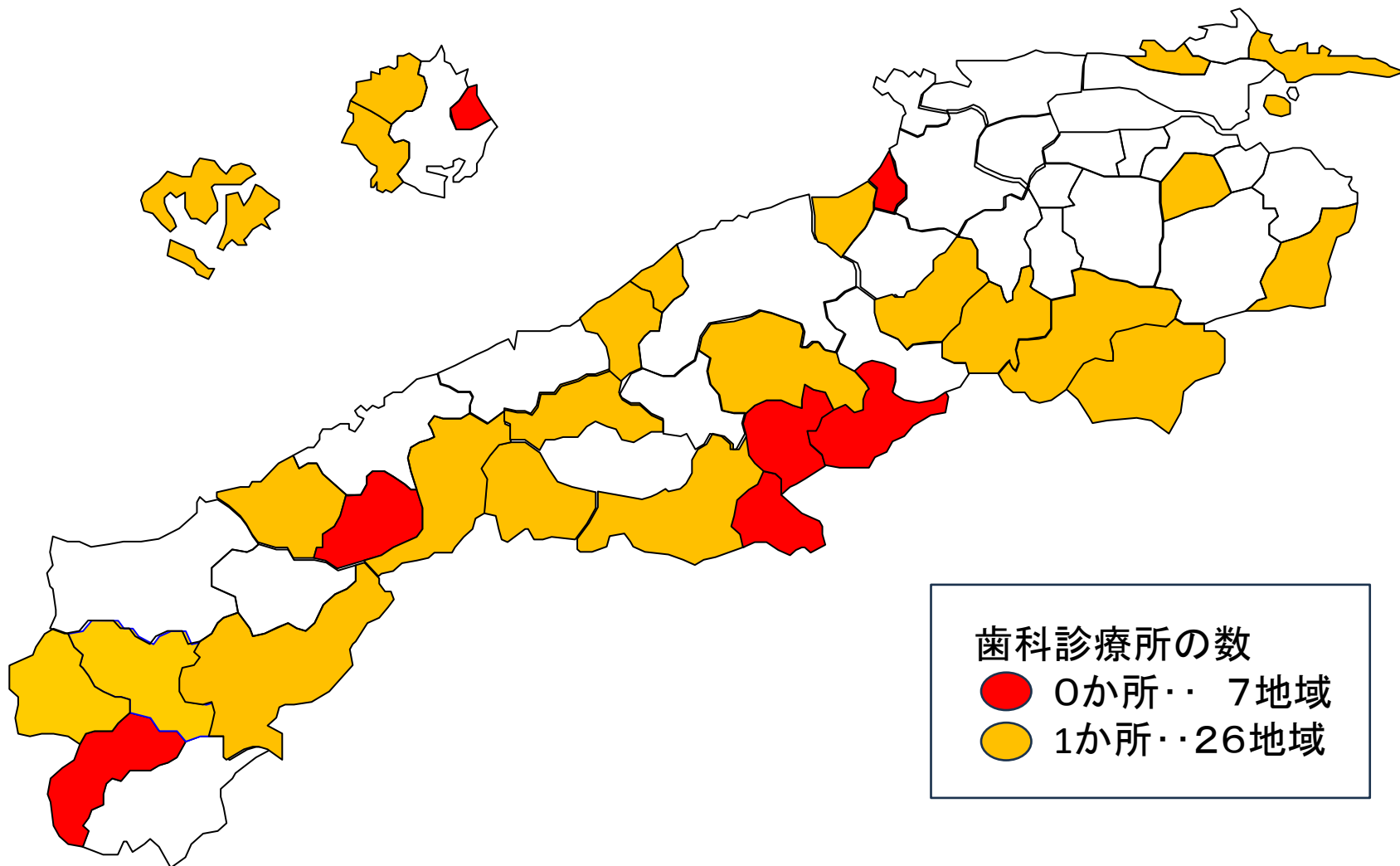
# 島根県の歯科医師の年齢階級別割合（令和4年）

- 歯科医師の年齢階級別割合をみると、39歳以下の割合が島根県13.1%に対して全国は22.4%であり、9.3ポイントも低い。一方、70歳以上の割合は、島根県17.1%に対し、全国は13.1%と、4.8ポイント高い。
- こうしたことから、島根県の歯科医師数は5～10年後以降、大きく減少することが懸念される。



## 島根県旧市町村（59地域）単位での歯科医療機関数（令和7年4月1日現在）

- 令和7年4月1日現在における、島根県の旧市町村（59地域）単位での歯科医療機関数（病院で歯科口腔外科を標榜している医療機関を含む）を調査したところ、歯科医療機関が0か所の地区が7地区（12%）、1か所のみの歯科医療機関が26地区（44%）となっていた。  
1か所以下の地域計33地区（56%）は、中山間地域及び離島に偏在している。



# 島根県における歯科医療提供体制の方向性

## 島根県保健医療計画（抜粋）

### 第5章 第2節 9 地域医療（医師確保等によるへき地医療の体制確保）

#### 【施策の方向】

#### （1）地域医療支援体制の構築

#### 2）一次医療の維持・確保

##### ① 各地域で一次医療の維持・確保のために必要な方策を検討する場の設置

本医療計画では、一次医療圏は市町村を単位として設定しています。

診療所の減少、医師の高齢化は医科・歯科ともに課題であり、初期救急医療、在宅医療、学校医や予防接種などの公衆衛生を含む一次医療が、地域で将来にわたり継続できるよう、医療機関、医師会、歯科医師会など関係団体と市町村、県が連携して、今後の診療所のあり方、病診連携、病院の役割等を検討していきます。

##### ② 一次医療における病院の役割の検討

医師の高齢化や後継者不足等により、診療所による一次医療の維持が困難な地域では、病院が診療所を支援する役割が、今後一層大きくなると見込まれます。

地域の課題は、初期救急医療体制の維持、学校医など公衆衛生を担う医師の不足、在宅医療の供給不足等、様々であることから、地域ごとに病院に求める支援のあり方を明確にしていく必要があります。

このような検討を踏まえ、従来の地域医療拠点病院の様々な取組などを継続して支援します。

# 離島における歯科医療提供体制の維持確保の取組例

## [島根県隠岐の島町の取組]

- ・隠岐の島町の歯科診療所は、令和3年4月の時点では、計6か所であった。  
(開業医3か所、国保歯科診療所3か所)
- ・令和3年7月末に、町の中心部で開業していた歯科診療所1か所が閉院。
- ・上記閉院により、町内の歯科診療及び歯科健診等の保健事業の実施などに支障が生じたことから、閉院した歯科診療所を隠岐の島町が国保診療所として引き継ぐ形で開設することを決定し、令和5年4月1日に国保歯科診療所として開院。  
(現在は、隠岐広域連合に移管)
- ・新たに開院した診療所に従事する医師は、隠岐病院の歯科医師のうち2名が交替で担うこととし、このために隠岐病院に勤務する歯科医師を2名→3名に1名増員して対応している。



隠岐広域連合立西郷歯科診療所  
(旧隠岐の島町国保西郷歯科診療所)